



# 今できることから始める 教職員向けオンライン研修

宮崎県教育委員会と一般財団法人こゆ地域づくり推進機構  
の連携による教職員向けオンライン研修の取組紹介

- ① 一般財団法人こゆ地域づくり推進機構主催  
オンライン研修会
- ② 宮崎県教育委員会主催  
オンライン土曜講座

# あすの宮崎の教育のための オンライン研修会 (事例紹介)

一般財団法人こゆ地域づくり推進機構  
教育イノベーション推進専門官  
中山隆

# プロフィール



中山隆(なかやまりゅう)

教育行政、公教育、公立塾など、これまで教育現場だけを職場に活動してきた。「まずは、実践してから考える」を大事にしている。授業実践だけでなく、マネジメントの経験や教員研修、自治体向け、の研修や講演経験も持つ。

## 【経歴】

1985年 宮崎県高鍋町生まれ

2004年 私立日向学院高校卒業

2009年 東京学芸大学教育学部卒業

小学校教員免許、中学校（社会）教員免許、高校（公民）教員免許取得

2009年 大学入試センター事業部奉職

センター試験の企画運営、800の大学、5000の高校からの相談対応などを行う。また、新テストの企画に携わる。  
※文部科学省にうち1年出向。高大接続改革の担当。

2015年 島根県隠岐島前教育魅力化プロジェクト参画

- ①隠岐島前高校で魅力化コーディネーターとしてキャリア教育の全体設計、探究活動の授業作成等を行う。
- ②小中高の教員の働き方改革に向けた企画、実践。
- ③ICTを活用した遠隔授業、個別最適化学習の企画実践、海士町GIGAスクール構想の構想策定
- ④高校生対象の公営塾の運営、高3指導（大学受験指導に限らず、専門学校進学、就職希望者の支援も含め延べ300人以上対応）

2020年 **こゆ財団に奉職。**

教育イノベーション推進専門官として、新富だから、宮崎だからこそ挑戦できる新しい教育の創造に挑戦中 2

# 本日の内容

**1 : 課題感**

**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

# 本日の内容

**1 : 課題感**

**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

# 1：課題感

- 新型コロナウイルスによる休校延長による対応検討が県内すべての学校で**急務**である。（5/1時点）
- 各学校は教職員のたゆまぬ努力により対応策を用意しているものの、**県内の共有知になっていない**ので、不要な苦勞している。
- 使ってみれば、活用方法は分かるものの、**活用した経験がなく**、できるのできていない解決策も多い。

# 本日の内容

**1 : 課題感**

**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

## 2：研修会のゴール

- ・ オンラインの特性を生かして、大多数の人に参加してもらおう（**100人**を目標）
- ・ 使用説明だけではなく、事例共有を受ける（≡講義を受ける）、対話（≡グループワーク）をすることで**オンライン活用のイメージ**が参加者にわくようにする。
- ・ 県内の先生に集まってもらって相談できる相手を**見える化**し、今後の展開につなげる。

# 本日の内容

**1 : 課題感**

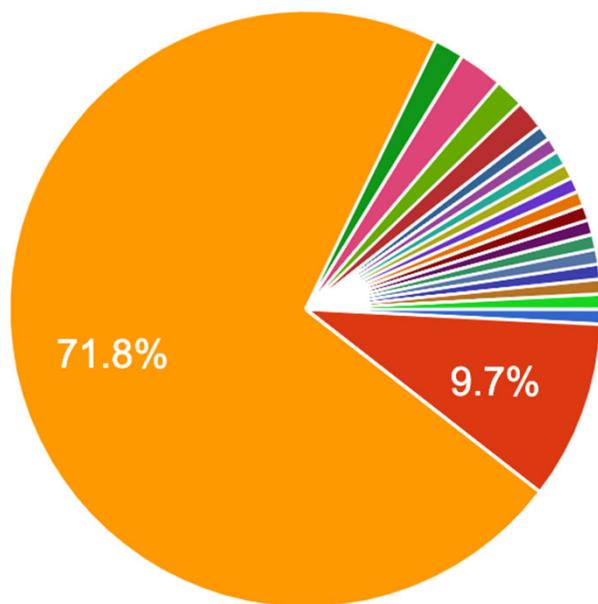
**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

### 3：研修内容等（①参加者と参加目的）



- ・参加者の120名のうち**70%**程度が高校教職員  
→管理職、教諭、司書教諭など、幅広く参加
- ・教育委員会、教育研修センター、大学教員、中学校教員の参加、県外からも参加があり多様な参加者に

#### <参加目的>

- 1位：他校での実践例が知りたい（70%）
  - 2位：オンラインコミュニケーションツールの機能説明を知りたい（68%）
  - 3位：ICTの授業導入過程を知りたい（30%）
- ※その他（リモート面接の方法、つながりを作りたいなど）

# 3 : 研修内容等 (②研修内容)

- ①モデレーターは1人で運営 (手触り感のある運営)
- ②講義、対話を混ぜた研修設計 (授業活用できるように)
- ③録画し、事後に参加者へ配布 (不測の事態への対応)

時間	内容	担当
13:00-13:40	<p>まずは使って慣れよう、ZOOMの使い方とオンラインコミュニケーションの活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOMの使用について (チャット、挙手、画面共有、ブレイクアウトの使い方など) 【15分】</li> <li>・早速活用、オンラインコミュニケーションの練習 【25分】</li> </ul> <p>(テーマ1) この2か月を振り返ってできたことを1つだけ共有しよう。(10分)</p> <p>(テーマ2) この2か月を振り返って出てきた困り感 (実はこれ、とても困っている) も共有しよう (15分)</p>	こゆ財団 中山
13:50-14:40	<p>県内公立学校の事例紹介 (50分)</p> <p>ア: 「遠隔授業で実現する、生徒たちの自律的な学びの仕組みづくり」</p> <p>イ: 「教科教育の中でのオンラインツールの活用～Stock活用の事例から～」</p> <p>※15分説明+10分対話の2セット</p>	<p>ア: 宮崎県立飯野高校 梅北瑞輝</p> <p>イ: 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 上水陽一</p>
14:50-15:40	<p>グループ対話 (ワールドカフェ形式) 40分←下記ア、イについて案内には掲載しないようにしたいと思います。</p> <p>ア: 感想の共有とうちならこれできそう! の共有 (20分)</p> <p>イ: 「うちならこれできそう」の共有と、来週からの1つだけの挑戦 (20分)</p>	こゆ財団 中山
15:40-16:00	チェックアウト (最後に紙を)	こゆ財団 中山

## 3 : 研修内容等 (③進め方)

※研修は**ZOOM**を活用

- ①全体講義はマイクオフ（適宜チャットでの質問を受付対応）
- ②対話については、5人程度のグループに分け話しやすいよう配慮。
- ③研修受付や事後アンケートについてはGoogleフォームで行う。



100人それぞれの場所から参加



パソコン1台  
オペレーション<sup>11</sup>1人

# 本日の内容

**1 : 課題感**

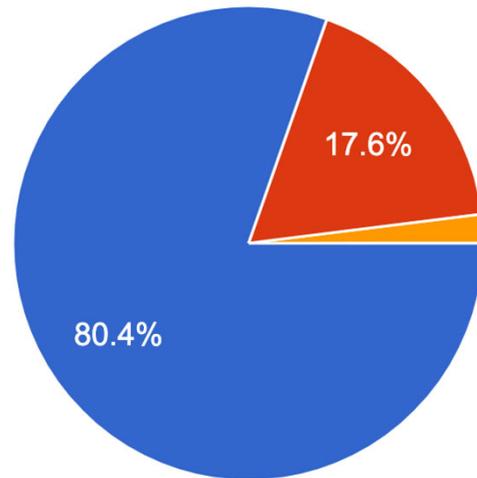
**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

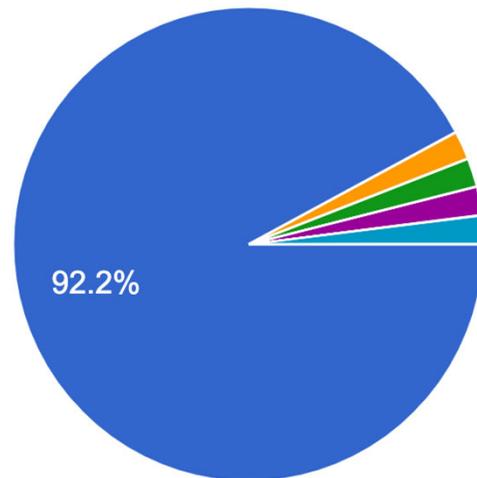
## 4：活動の成果（①事後アンケート n=51）



- ・ アンケート回答者の**98%**がとても良かった、良かったという評価

【理由（一部抜粋）】

- ・ オンライン体験ができてよかった。
- ・ 様々な形式の講義・ワークに参加できた。
- ・ 各学校の取組を知ることができた。
- ・ ZOOMに対する抵抗感もなくなった。



- ・ アンケート回答者の**92%**が継続的に研修会に参加したいという評価だった。

- ・ また、各学校からも共有できる情報や事例があることも分かった。

**1週間後には小中学校向けの研修会への発展**

# 本日の内容

**1 : 課題感**

**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

## 5：今後の展望（案）

○広域オンライン研修の更なる充実

→県内外のニーズを踏まえ、時機を見て適切に実施できる研修会の企画・実施

→学校種を横断した研修会の企画・実施

→録画・アーカイブ化による参加負荷の軽減

※オンライン研修内容（例）

- ・ EdTech研修（GIGAスクール構想など）
- ・ 授業づくり・授業改善研修 など想定



# 宮崎県教育委員会主催 オンライン土曜講座 (事例紹介)

宮崎県教育委員会  
教育政策課 企画調整担当  
指導主事 津奈木 考嗣



# 本日の内容

**1 : 課題感**

**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**

# 本日の内容

**1 : 課題感**

**2 : 研修会のゴール**

**3 : 研修内容等**

**4 : 活動の成果**

**5 : 今後の展望**



# 1：課題感

- **アフターコロナを見据えて、オンライン設備が整う前に、できることから手を打つ必要がある。**
- **オンラインコミュニケーションツールの必要性は分かるが、何から始めたらよいか、何ができるのかが分からない。**
- **校種や子どもの発達段階に応じた適切な活用の在り方を考えるためには、実態をしっかりと把握する必要がある。**

# 本日の内容

1 : 課題感

2 : 研修会のゴール

3 : 研修内容等

4 : 活動の成果

5 : 今後の展望



## 2：研修会のゴール

- ・ まずは、県内各地の教職員、教育行政職員にオンラインツールに触れてもらう。
- ・ 小学校や高等学校など、**異校種の活用事例**を参考にしながら、各参加者の実態から見たオンラインツールの**有効性や可能性**を考えるきっかけとする。
- ・ 様々な立場の方々がグループワークをしながら、課題や今後の展望について共有する。

# 本日の内容

1 : 課題感

2 : 研修会のゴール

3 : 研修内容等

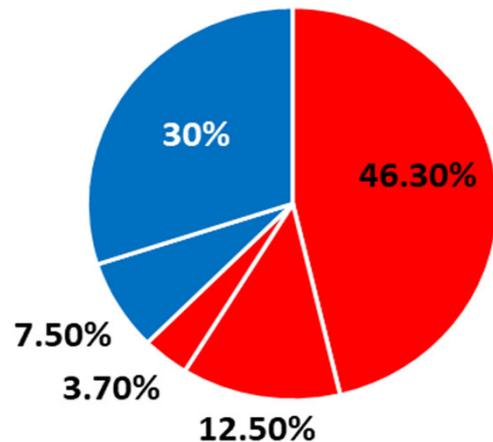
4 : 活動の成果

5 : 今後の展望



# 3：研修内容等（①参加者と参加目的）

参加者の職種別割合



- ・参加者の96名のうち**60%**程度が公立学校の教職員  
→管理職、教諭、主幹教諭、指導教諭など、幅広く参加

## <参加目的>

1位：オンラインコミュニケーションツールの機能説明を知りたい（95%）

2位：オンラインによる新たな学び方について考えたい（68%）

3位：ICTを活用した学校等の実践を知りたい（58%）

※ 複数回答可

# 3 : 研修内容等 (②研修内容)

9 : 00		9 : 30		10 : 20		11 : 30	
		9 : 20		10 : 10		11 : 20	
5月16日(土)	機器設定確認	説明	<b>講義</b> オンラインコミュニケーションの活用方法 ・一般財団法人こゆ財団教育イノベーション推進専門官 中山 隆 氏	<b>実践報告 2</b> ・ プラハ日本人学校 教頭 吉野 裕子 <b>GW</b>  パネルディスカッション 進行 中山 隆 パネラー 梅北 瑞輝 吉野 裕子		まとめ	
	キーステーションと申込者の機器がオンラインでつながっているかの確認		<b>実践報告 1</b> ・ 県立飯野高校 指導教諭 梅北瑞輝 <b>GW</b>	<b>GW</b>			

- ◇ 参加者のスタンス：オンライン1年生というフラットな関係で！
- ◇ 各セッション毎にグループワークを入れ、意見交流を行う。

# 本日の内容

1 : 課題感

2 : 研修会のゴール

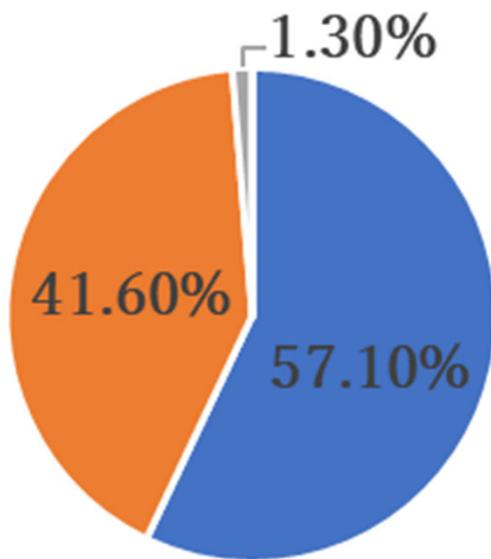
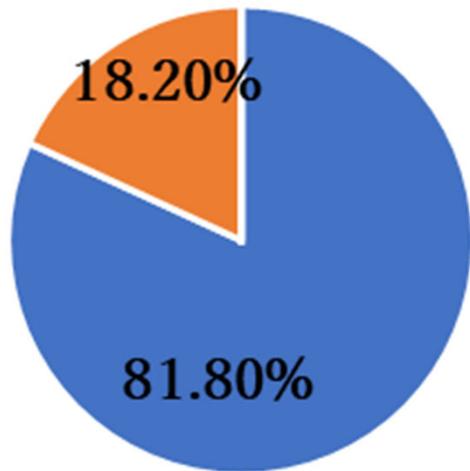
3 : 研修内容等

4 : 活動の成果

5 : 今後の展望



## 4：活動の成果（①事後アンケート n=80）



- ・ アンケート回答者の**100%**がとても良かった、良かったという評価

【理由（一部抜粋）】

- ・ オンライン体験ができてよかった。
- ・ 初めての体験であったが簡単だった。
- ・ かなりリアルな研修だった。
- ・ 様々な実践例が参考になった。

- ・ アンケート回答者の**98.7%**が目的に合致した研修で満足であり、そのうち**57%**が期待以上であったと回答していた。

- ・ **1.3%**が一部満足と回答した理由には、「機器の接続不備で音声聞き取れない部分があった。」としている。

# 本日の内容

1 : 課題感

2 : 研修会のゴール

3 : 研修内容等

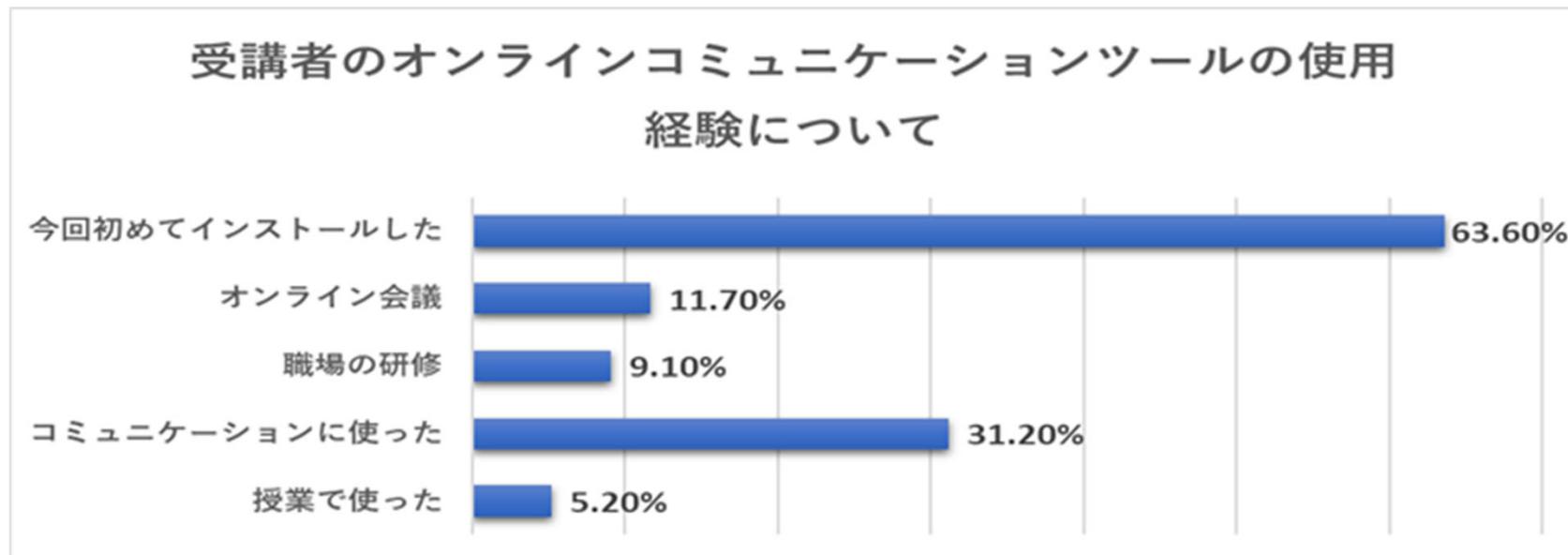
4 : 活動の成果

5 : 今後の展望



## 5：今後の展望

- **土曜講座に自主的に参加した方であっても、初めて使うという方が全体の6割以上であった。**



## 5：今後の展望

- **オンラインコミュニケーションツールへの不安感や抵抗感は、研修を通して触れてみることで徐々に緩和されものと考ええる。**
- **アフターコロナを見据えた、校種別、ニーズ別のオンライン研修の在り方について考えていく必要がある。**